

現代中国語における領属モデル

勝川 裕子

0. はじめに

勝川 2008 では、領属とダイレクトに関わる“有”構文や、これまで領属範疇では扱われることのなかった各種構文を取り上げ、領属タイプ(全体 - 部分関係、本体 - 属性関係、相互依存関係、任意的領属関係)別に、それぞれの統語的・意味的特徴を抽出した。特に、領属性“被”構文、“领主属宾句”、 $\langle N_1+V得+N_2+VP \rangle$ 構文においては、構文成立に領属の不可譲渡性が求められることから、いずれの構文も領属範疇と深く関わっていることを指摘した。これは取りも直さず、構文成立の容認度と領属の譲渡性との間に密接な相関関係が存在することを示唆している。

本稿では、勝川 2008 の続稿として、領属の可譲渡/不可譲渡性という観点から、領属タイプを連続的に位置づけ、これを「領属モデル」として提示すると同時に、これが中国語話者の領属に対する普遍的な認知能力に依拠するものであることを述べる。また、現代中国語における可譲渡性の階層(hierarchy)が、世界の大多数の言語のそれとは異なると従来指摘されているのに対し、本稿で提示する「領属モデル」が Haiman 1985 の示すモデルと似通った階層を有していることを指摘する。

1. 領属タイプ別構文成立容認度

本章では、領属の密接不可分性と構文成立の容認度の相関関係についてさらに詳細に考察するために、勝川 2008 に引き続き、領属性“被”構文、“领主属宾句”、 $\langle N_1+V得+N_2+VP \rangle$ 構文を取り上げる。領属関係の下位タイプ¹(全体 - 部分関係、本体 - 属性関係、相互依存関係、任意的領属関係)別にそれぞれ構文の成立容認度を検証し、可譲渡と不可譲渡の間に連続的な階層が存在することを明らかにしていく。

尚、本稿中に挙げる用例の成立容認度判定については、普通話話者であ

ると認められる中国人 15 名に依頼した。インフォーマントにはアンケートをとり、各用例について「自然」、「おかしい」、「どちらとも言えない」の判断を仰いだ。「自然」、「おかしい」、「どちらとも言えない」をそれぞれ 1 点、0 点、0.5 点とし、その平均値を算出して用例の末尾〔 〕内に示した。例えば、ある用例についてインフォーマント全員が「自然」と判断すれば、その文の容認度平均値は〔1.00〕となり、全員が「おかしい」と判断すれば〔0.00〕となる²。

1.1 全体 - 部分関係

領属主と領属物が全体 - 部分関係にある場合における各種構文の成立容認度を調査した結果、領属性“被”構文、“領主属宾句”、 $\langle N_1+V$ 得 $+N_2+VP \rangle$ 構文のいずれの構文においても、1.00 ポイント満点中 0.95 ポイントから 1.00 ポイントと、領属タイプの中でも最も高い結果が得られた。これは他の領属タイプと比較しても明らかである。

例(1)～例(6)における賓語は全て主語の<身体部位>、もしくは<モノの一部>である。例(1)～例(3)の領属性“被”構文は、領属主(主語)が自らの領属物(賓語)を通じてデキゴトに直接関与しており、その影響を直接経験することを述べる構文である。また、例(4)～例(6)の“領主属宾句”は、領属主(主語)の意思やコントロールを離れたところで、自らと密接不可分な領属物(賓語)が自発的に<出現>或いは<消失>することにより、領属主が直接的な影響を受けることを述べる構文である。

- (1) 他被人家紧紧地绑住了手和脚。【1.00】
[彼は手と足をきつく縛り上げられた]
- (2) 他被人剪去了辫子。【1.00】
[彼は辮髪を切られた]
- (3) 他被炮弹炸掉了手指头。【1.00】
[彼は爆弾に指を吹き飛ばされた]
- (4) 张三折了一条胳膊。【1.00】
[張三は腕が(1本)折れた]
- (5) 婴儿已经长全了奶牙。【0.95】
[赤ん坊は乳歯が全部生えそろった]
- (6) 那家工厂塌了一堵墙。【0.95】

[その工場は壁が崩れた]

一方、例(7)～例(9)の<N₁+V得+N₂+VP>構文は、コトガラ<N₁+V>の影響を受け、その影響が直接N₁の領属物N₂上にコトガラ<N₂+VP>として発生することを述べる構文である。

(7) 李四急得脸都红了。【1.00】

[李四は焦って、顔が赤くなった]

(8) 她哭得眼睛红肿了。【1.00】

[彼女は泣いて眼が真っ赤に腫れた]

(9) 她热得头脑发昏了。【0.95】

[彼女は熱くて、頭がボーっとした]

これら 3 つの構文に共通する要素は、領属主(あるいは領属物)が領属物(あるいは領属主)上に発生したデキゴト通じて何らかの直接的な影響を蒙ることである。全体 - 部分関係は、領属の下位タイプの中でもとりわけ一体性が高く、不可譲渡性の高い領属関係であるため、領属主(全体)と領属物(部分)は互いに直接的な影響を及ぼしあう関係にあるといえる。このような領属の意味的特徴が構文成立容認度の高さにも反映されているのである。

1.2 本体 - 属性関係

<属性>には、身長/体重/身体機能といった準身体的領属物や、性質/感情/意識といった精神的領属物が含まれる。領属主と領属物が本体 - 属性関係にある場合、領属性“被”構文、“领主属宾句”、<N₁+V得+N₂+VP>構文のいずれの構文においても、構文成立の容認度平均値は 1.00 ポイント満点中 0.80 ポイントから 1.00 ポイントと、全体 - 部分関係に次ぐ高い結果が得られた。

特に、領属性“被”構文における領属関係に関しては、先行研究では「賓語は身体部位に限られる」と指摘されてきた(Chappell1986)が、言語実態としては、以下の例(10)～例(12)に挙げるように本体 - 属性関係も構文成立に関与している。

(10) 她觉得好像被人窥到了心里的隐私似的。【1.00】

[彼女は心の中の秘密を覗かれたように感じた]

(11) 警察显现出被人触痛了伤疤似的痛苦表情。【0.95】

[警官は傷に触れられたかのような苦痛の表情を浮かべた]

(12) 他被鸦片弄坏了健康。【0.80】

[彼はアヘンで健康を損ねた]

例(13)～例(15)の“領主属宾句”では、賓語“关节炎/(这样一种)认识/(建立家庭的)希望”のような<属性>は、その本体である“我奶奶/她/他”が存在して初めて属性たり得る密接不可分な領属物であり、このような属性の<出現>や<消失>は、その本体にとっても直接的な影響を引き起こすものであると考えられる。

(13) 我奶奶最近又犯了关节炎。【1.00】

[祖母は最近また関節炎が再発した]

(14) 在美国，她就产生了这样一种认识：美国，就应该如此。【0.95】

[アメリカで彼女にこのような認識が芽生えた。「アメリカはこうでなくては。」]

(15) 他又一次破灭了建立家庭的希望。【0.80】

[彼はまたもや家庭を築き上げる希望が消え失せてしまった]

また、以下に挙げる<N₁+V得+N₂+VP>構文の場合、例(16)は“老张气”の結果、“老张”(N₁)の身体機能である“血压”(N₂) 即ちN₁の属性面において、“(血压)升高了”という事態が発生したことを示している。同様に、例(18)は“他被欺负”の影響を受けて、“他”(N₁)の本質的な性質である“性格”(N₂)面において、“(性格)变坏了”という変化が引き起こされたことを表している。

(16) 老张气得血压升高了。【1.00】

[張さんは怒って血圧が上がった]

(17) 她吃得体重增加了。【0.90】

[彼女は食べて体重が増えた]

(18) 他被欺负得性格变坏了。【0.80】

[彼はいじめられて性格が悪くなった]

このように、本体 - 属性関係は、全体 - 部分関係よりも領属物の具象性や、領属主との一体性に若干欠けるものの、領属主と領属主が普遍的に兼ね備

える属性(領属物)は互いに直接的な影響を及ぼしあう不可譲渡な関係にあるといえる。

1.3 相互依存関係

相互依存関係に代表される<人間関係>は、例(19)～例(21)のような領属性“被”構文や<N₁+V得+N₂+VP>構文においては、構文成立に關与していないことが判明した。これは、<人間関係>が相互依存の上に成り立つという点で、不可譲渡性が高いとはいえ、やはり領属主とは別個体として認識されるためであり、領属主が自らの領属物を通じてデキゴトに直接關与し、その影響を直接経験しなければならない領属性“被”構文や、<N₁+V>が表す動作・行為の直接的影響を受け、その同一体内において<N₂+VP>が引き起こされることを示す<N₁+V得+N₂+VP>構文とは相容れないためであると考えられる。

(19) ??太郎被歹徒杀死了弟弟。【0.25】

[太郎は通り魔に弟を殺された]

(20) *王五被李四打伤了孩子。【0.20】

[王五は李四に子供を殴られた]

(21) *张三被某人拐骗了女儿。【0.20】

[張三は何者かに娘を誘拐された]

一方、例(22)～例(24)のような“領主属宾句”では、<人間関係>は領属主と密接不可分な領属物として、全体 - 部分関係、本体 - 属性関係に次いで、構文成立容認度が高い領属関係であると認識される。

(22) 他 30 岁那年死了 媳妇 , 到现在还没娶上。【0.95】

[彼は30歳で嫁に死なれてから、いまだ嫁を娶っていない]

(23) 李四 为学费而困惑的时候 , 出现了 一个乐于资助他的人。【0.80】

[李四は学費の工面に困っていたとき、資金援助をしてくれる人が現れた]

(24) 去年 , 我 又多了 个弟弟。【0.80】

[去年、私はまた弟が1人増えた]

例(22)では、領属物が“媳妇”であることから、領属主“他”は「夫」と規定される。また、「嫁に死なれる」ことは“他”にとって重大な<消失>であると言えよう。このように“媳妇/一个乐于资助他的人/(一)个弟弟”は“他(=夫)/李

四(=資金援助を受ける側)/我(=兄/姉)”の存在を前提として規定される関係であり、このような対象が領属主の眼前から<出現>或いは<消失>することは、領属主に直接的な影響を与え得ると認識されることから、構文が成立するのである。

1.4 任意的領属関係

任意的領属関係は、領属主が何らかの働きかけをした結果、領有するに至った遇有的な領属物との関係を表すことから、可譲渡性の高い領属関係であると考えられるが、領属のあり方・領属の状態により、構文成立に大きな差異がみられる。以下、任意的領属関係を<装着類>とそれ以外の<一般領属物>の二類に分け、考察を進めていく。

1.4.1 装着類

例(25)～例(27)に挙げる領属性“被”構文の賓語“钱包/衣服/帽子”は全て任意的な領属物であるが、領属性“被”構文の成立容認度は<属性>と同等であるという結果が得られた。但し、この賓語位置にある領属物は、身に着けた状態 即ち装着中の領属物であると解釈される傾向にある。

- (25) 他被小偷偷走了钱包。【1.00】
[彼は泥棒に財布を盗まれた]
- (26) 我被太郎撕破了衣服。【0.95】
[私は太郎に服を破られた]
- (27) 她被大风吹走了帽子。【0.90】
[彼女は大風に帽子を吹き飛ばされた]

同様に、例(28)～例(30)に挙げるN₂“衣服/鞋/帽子”も全てN₁にとって任意的な領属物であり、通常N₁とN₂は同一体であるとは認識されないが、これが身に着けた状態にある場合、構文成立容認度は<身体部位>や<属性>より若干劣るものの、自然な表現として成立する。

- (28) 李军被雨淋得衣服都湿透了。【0.90】
[李軍は雨に降られて服がぐっしょり濡れてしまった]
- (29) 他摔得鞋都飞了。【0.80】

[彼は転んで靴が飛んだ]

(30) 晓燕跳得帽子掉在地上了。【0.75】

[晓燕は飛び跳ねて帽子が地面に落ちた]

このことから、現代中国語では、衣類や装飾品等のような任意的領属物であっても、それが身に着けられた状態 即ち領属先に付着した状態であれば、身体の一部に準ずる領属物とみなされ、<身体部位>や<属性>に次いで不可譲渡性の高い領属物と認識されることが分かる。

1.4.2 一般領属物

一方、上で挙げた<装着類>以外の任意的な領属物の場合、構文成立容認度は、いずれの構文においても、1.00 ポイント満点中 0.25 ポイントから 0.65 ポイントと、領属タイプの中でも最も低い結果となった。

(31) ?他被李四盗用了作品。【0.65】

[彼は李四に作品を盗まれた]

(32) ??她被大卡车撞坏了车。【0.45】

[彼女はトラックに車をぶつけられた]

(33) ??我被太郎撕破了情书。【0.25】

[私は太郎にラブレターを破られた]

(34) ?老梁死了一条狗。【0.65】

[?梁さんは犬が(1匹)死んだ]

(35) ??张三烂了一园子梨。【0.45】

[??張三は梨がひと畑腐ってしまった]

(36) ??他跑了三只蚰蚰儿。【0.45】

[??彼は3匹のこおろぎが逃げてしまった]

(37) ?那帮家伙笑得酒都洒了。【0.40】

[?あいつらは笑いすぎて酒がみなこぼれてしまった]

(38) ??他紧张得杯子摔碎了。【0.25】

[??彼は緊張してグラスが落ちて割れてしまった]

(39) ??老师气得竹棍直打颤。【0.25】

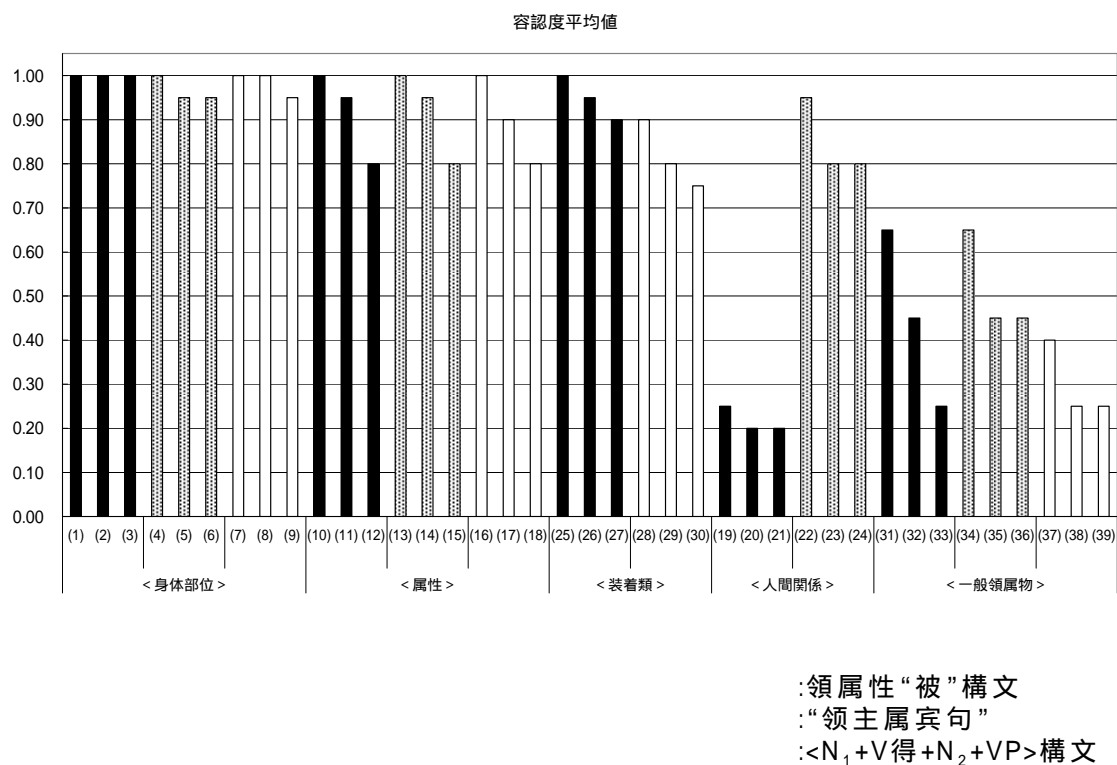
[??先生は怒って竹棒がぶるぶる震えた]

上で述べたように、領属性“被”構文、“領主属宾句”、 $\langle N_1+V得+N_2+VP \rangle$ 構文は領属主(あるいは領属物)が領属物(あるいは領属主)上に発生したデキゴトを通じて何らかの直接的な影響を蒙ることを表す構文であるため、領属主と領属物の間に高い不可分性が要求される。一方、任意的領属関係は、領属タイプの中でもとりわけ可譲渡性の高い領属関係であるため、いずれの構文においても極めて不自然な表現となる³。

2. 領属関係の階層性とその連続的位置づけ

以下の<図 1>は、第 1 章で取り上げ考察した領属性“被”構文、“領主属宾句”、 $\langle N_1+V得+N_2+VP \rangle$ 構文の成立容認度平均値を図示したものである。縦軸は容認度平均値を、横軸は左から<身体部位><属性><装着類><人間関係><一般領属物>の順に領属物を示す。

<図 1> 各構文における成立容認度と階層性 :



前章では、 ~ の構文がいずれも領属範疇と深く関わっており、且つ構文成立には領属の不可譲渡性が求められることを指摘した。これを考慮に踏

まえて<図 1>を見ると、構文成立の容認度が高いほど不可譲渡性が高く、反対に、容認度が低いほど可譲渡性が高いことが読み取れる。つまり、構文の成立容認度と領属の譲渡性との間には密接な相関関係が存在するのである。また、それぞれの領属タイプにおける容認度は連続的な階層を成していることが分かるが、これは即ち、領属主と領属物との関係を譲渡性という観点から見た場合、不可譲渡な領属関係と可譲渡な領属関係の間にも、連続的・階層的な傾斜が存在することを示唆している。

領属物をタイプ別にみてみよう。領属物が<身体部位>の場合、いずれの構文においてもその成立容認度は他の領属物の中で最も高いという結果が得られた。これは即ち、<身体部位>や<モノの一部>に代表される全体 - 部分関係が最も不可譲渡性の高い領属関係であることを示している。第 1 章で取り上げた構文を領属範疇で捉えた場合、いずれも領属主(あるいは領属物)が領属物(あるいは領属主)上に発生したデキゴト通じて何らかの直接的な影響を蒙るという要素を共通項としてもつが、全体 - 部分関係は、領属の下位タイプの中でもとりわけ領属主と領属物との一体性が高いことから、領属主(全体)と領属物(部分)が互いに直接的な影響を及ぼしあう関係にあるといえる。

<身体部位>に次いで成立容認度が高いのは<属性>である。属性とは事物(本体)が普遍的に兼ね備えている性質や特徴を指すが、程度や内容の差こそあれ、それが原則として全てに等しく、且つ不可分に領有されているという点で不可譲渡性の高い領属物である。このような<属性>を領属物にもつ本体 - 属性関係は、全体 - 部分関係よりも領属物の具象性や、領属主との一体性に欠けるものの、領属主と領属物が普遍的に兼ね備える属性(領属物)は互いに直接的な影響を及ぼしあう不可譲渡な関係にあるといえる。

<属性>の次に成立容認度が高いのが<装着類>である。<装着類>は本来、任意的な領属物であり、可譲渡性が高いが、それが身に着けられた状態にある場合、不可譲渡性が高まることが明らかとなった。<装着類>は、領属性“被”構文と<N₁+V得+N₂+VP>構文において構文成立に参与しているが、可譲渡性の高い任意的な領属物であっても、それを装着することにより、領属主との一体性/不可分性が高まり、身体の一部に準ずる不可譲渡な領属物として認識されると考えられる。

相互依存関係に代表される<人間関係>は、“領主属宾句”では領属主と密接不可分な領属物として、全体 - 部分関係、本体 - 属性関係に次いで、

構文成立容認度が高い領属関係であると認められる。一方、領属性“被”構文と<N₁+V得+N₂+VP>構文においては、相互依存関係は構文成立に関与していないという考察結果が得られた。これは、<人間関係>が相互依存の上に成り立つという点で、不可譲渡性が高いとはいえ、やはり領属主とは別個体として認識されるためであり、領属主が自らの領属物を通じてデキゴトに直接関与し、その影響を直接経験しなければならない領属性“被”構文や、<N₁+V>が表す動作・行為の直接的影響を受け、その同一体内において<N₂+VP>が引き起こされることを示す<N₁+V得+N₂+VP>構文とは相容れないためであると考えられる。また、<人間関係>は<身体部位>や<属性>とは異なり、それが領属先の内部に兼ね備えられていないという点で、領属主と領属物との一体性は低く、身体に付着させることで一体性/不可分性が高まる<装着類>よりも容認度は若干低い。

以上の考察を踏まえ、構文の成立容認度と領属の可譲渡性との関連から、現代中国語における領属の階層を「領属モデル」として以下に提示する。

<図 2> 現代中国語における可譲渡性階層⁴ :

身体部位 < 属性 < 装着類 < 人間関係 < 一般領属物

<図 2>の「領属モデル」を領属に対する認知パターンとして捉えると、中国語話者は<身体部位>や<属性>を不可譲渡性の高い領属物であるとみなし、<装着類>、<人間関係>、<一般領属物>の順に不可譲渡性が低く(可譲渡性が高く)なっていくと認識していると考えられる。また、この認知パターンにみられる階層性は、本稿で考察対象として取り上げた3つの構文の成立容認度とも合致する考察結果であり、中国語話者の領属に対する普遍的な認知モデルであると考えられることができる。

また、この「領属モデル」を不可譲渡所有カテゴリーにおけるプロトタイプ効果(prototype effect)という観点から考察すると、現代中国語における領属の内部構造は、例えば人間や動物とその身体部位というような、領属主と先天的に不可分な領属物である<身体部位>をプロトタイプとしていることが分かる。そして、この中心的カテゴリーから、<属性>、<装着類>といった非中心的(周

辺的)カテゴリーへと同心円状に階層を成しており、このカテゴリーの分布関係にはプロトタイプ効果が認められる。

プロトタイプ効果に関して、山梨 2000 は次のように述べている。

カテゴリー化のプロセスに見られるプロトタイプ効果自体は、言語能力に由来するものではなく、人間の一般的な認知能力に由来するものである。...(中略)...日常言語の概念体系のかなりの部分は、外部世界の客観的な反映として構築されているのではなく、我々の身体性や創造性に根ざすメタファー、イメージ形成、イメージスキーマ変換等の主観的な認知プロセスを介して構築されている。

(山梨 2000:39-40)

これはつまり、日常言語における概念体系は、言語主体から独立した記号系として存在しているのではなく、人間の一般的な認知能力 即ち、知覚、記憶、情報処理の効率性等に由来しているものであり⁵、言語現象を一般的な認知能力と運用能力の発現として捉えなければならないことを示唆している。従って、<図 2>の「領属モデル」、及びそのプロトタイプ効果は、中国語話者の領属に対する一般的な認知能力に依拠するものであり、このような領属に対する認識の相違が、言語構造 即ち、領属性“被”構文、“領主属宾句”、<N₁+V得+N₂+VP>構文に反映され、統語的振舞いの相違として現れているのである。

また、領属概念としての不可譲渡所有と可譲渡所有は、従来、対極にある概念として明確に区分されてきたが、このようなプロトタイプ効果の観点から考察すると、不可譲渡所有と可譲渡所有は連続的・階層的に繋がっており、決して明確に二分され得る概念ではないことは自明である。

3. 現代中国語における可譲渡/不可譲渡性

Haiman1985 は言語一般における可譲渡性の階層(hierarchy of alienability)について、次のように述べている(破線は引用者による)。

Intuitively, the hierarchy of “alienability” is: body parts less alienable than kinsmen; kinsmen less alienable than artefacts. Languages which make no overt distinctions among these categories (like English) are not problematic for this hierarchy; neither are

languages which oppose kinsmen and body parts to artefacts; nor, again, are languages which oppose body parts to both kinsmen and artefacts.

(Haiman1985:135)

Haiman1985 は、身体部位(body parts)は親族(kinsmen)より、親族はその他の人工物(artefacts)より可譲渡性が低く、これらの領属関係の間には階層(hierarchy)が存在することを指摘しているのだが、これは<図 3>のように図示することができる。

<図 3> the hierarchy of “alienability” :

body parts < kinsmen < artefacts

<図 3>において左端を占める身体部位は不可譲渡所有のプロトタイプであり、右側へいくに従い可譲渡性が高くなる。親族は身体部位と人工物の中間に位置し、各個別言語によって可譲渡所有であったり、不可譲渡所有であったりする。Haiman1985 は、この階層が基本的にはあらゆる言語に適用できる普遍的なものであり、この順序が入れ替わることはないとは指摘しているが、これは要するに、親族が不可譲渡所有として扱われる個別言語では、身体部位は必ず不可譲渡所有として扱われるという規則性が存在することを示唆している。

現代中国語の領属研究においては、従来、“我妈妈”[私の母]のように人称代名詞(Pro)と親族、集団名称(N)とが“的”を介さずに直接結合できるのは、ProとNの関係が不可譲渡な領属関係にあるためであるとされ、親族関係は不可譲渡な領属関係であると指摘されてきた(相原 1976、中川 1976、Li&Thompson1981、Haiman1985 等)。つまり、“我妈妈”のような ProN 構造は、Pro と N が不可譲渡な関係にあることを根拠に、ProdeN 構造(“我的妈妈”)から“de”を省略した形式として成立すると主張するのである。Haiman1985 の仮説に従えば、親族関係が不可譲渡であれば、身体部位も不可譲渡でなければならない。つまり、“我妈妈”が成立するならば、“我的手”[私の手]から“的”を省略しても成立するはずであるが、言語実態としては“*我手”は成立し得ず、Haiman1985 の提唱する<図 3>の hierarchy には当てはまらない。

現代中国語における可譲渡性の階層は、世界の大多数の言語とは異なる特異な様相を呈していると、Haiman1985 自身も以下のように指摘している(破線は引用者による)。

In Mandarin, there is a formal contrast between possession expressed by a nomino-adjectival particle *de* and simple juxtaposition: *NP de NP* vs. *NP NP*, where, in each case, the first NP represents the possessor. The motivation hypothesis predicts that the first pattern is used where possession is alienable. What actually seems to be the case, however, is that *NP de NP* expresses the relationship of possession where the possessum is anything but a kinsman: ... (中略) ... Mandarin violates the hierarchy, and is not alone in doing so. That is, there are other languages in which, by the morphological evidence, the hierarchy of alienability is: kinsmen less alienable than body parts; body parts less alienable than artefacts.

(Haiman1985:134 135)

Li & Thompson1981:115、161 にも同様の指摘がみられ、このような階層現象に対し「中国語では単純に可譲渡/不可譲渡の対立の概念化の仕方が(他の言語とは)異なる」からであると指摘している。また、相原 1976:8 も「inalienable possession を文法カテゴリーとして考えるべき」であり、さらに素性[±alienable]は、各言語間において「それぞれの言語の話し手の精神構造における違いを反映するため、奇異な現象ではない」と主張している。先行研究におけるこれらの指摘は、<図 4>のように図示することができる。

<図 4> the hierarchy of “alienability” in Mandarin Chinese:

kinsmen < body parts < artefacts

従来の研究では、現代中国語における可譲渡性の階層は<図 4>に示すような様相を呈し、世界の多くの言語が示す階層(<図 3>)とは異なることが強調されてきた。しかし、勝川 2001 では考察の結果、ProN 構造は ProdeN 構造から“*de*”を「省略」した、ProdeN 構造に付随する表現形式であるとみなすことはで

きないと指摘し、従って、ProN 構造が成立する理由を Pro と N の不可譲渡性に求めるのは妥当ではないと結論付けている。一方、本稿では、第 1 章における考察をもとに、領属の譲渡性という観点から領属タイプを連続的に位置づけ、これを「領属モデル」として提示したが、これは Haiman1985 が示す<図 3>のモデルと同様の階層を示している。

このことから、現代中国語の領属構造は決して特異な様相を呈しているわけではなく、世界の多くの言語と似通った階層を有していると考えられる。

4. おわりに

本稿では、勝川 2008 の続稿として、領属タイプ別に構文レベルの統語的・意味的特徴を総括し、現代中国語における領属範疇の体系化を試みた。また、構文の成立容認度と領属の譲渡性の相関関係を明らかにすることを通じて、領属タイプを連続的に位置づけ、その階層を「領属モデル」として提示した。

現代中国語における可譲渡性階層：

身体部位 < 属性 < 装着類 < 人間関係 < 一般領属物

この「領属モデル」には、プロトタイプ効果が認められる。つまり、人間や動物とその身体部位というような、領属先と先天的に不可分な領属物である<身体部位>をプロトタイプとし、この中心のカテゴリーから、<属性>、<装着類>といった周辺のカテゴリーへと同心円状に階層をなしている。また、このような認知パターンにみられる階層性、及びそのプロトタイプ効果は、中国語話者の領属に対する一般的な認知能力に依拠するものであり、このような領属関係に対する認知パターンが、言語構造に反映され、統語的振舞いの相違として現れているのであると指摘した。

また、従来、現代中国語における可譲渡性の階層は、世界の大多数の言語のそれとは異なると指摘されてきたが、本稿で提示した「領属モデル」は Haiman1985 が示したモデル<図 3>と似通った階層を有している。従って、現

代中国語の領属構造は、決して特異な様相を呈しているわけではないということ併せて指摘した。

本稿は2007年1月に名古屋大学に提出した博士学位論文「現代中国語における「領属」の諸相」の一部に加筆修正を施したものである。

注

- 1 領属関係の定義と下位分類、及びそれぞれの領属タイプにおける統語的・意味的特徴に関する詳細な考察は、勝川 2004、2008 を参照。
- 2 用例の文頭に記した[*]はその表現が成立しないことを示す。また、[?]はその表現が不自然であることを、[??]はさらに著しく容認度の低い表現であることを示す。尚、構文の成立容認度に関する判断は、以下の基準に拠った。

適格文	…	[0.75 以上]
[?]	…	[0.50 以上 0.75 未満]
[??]	…	[0.25 以上 0.50 未満]
[*]	…	[0.25 未満]
- 3 例(34)～例(36)の“領主属宾句”や例(37)～例(39)の<N₁+V得+N₂+VP>構文は、文脈支持や修飾成分を付加することで成立可能となる。

(36) 他跑了精心饲养的三只蝮蝮儿。【0.90】

[彼は大切に飼っていた3匹のこおろぎが逃げてしまった]

例えば、例(36)のように賓語に修飾成分“精心饲养的”を加えることで、文としての容認度が高くなる。これは、賓語に修飾成分を加えることにより、主語・賓語間における領属関係の不可譲渡性が高まるためであり、そのような依存性(dependency)の高い領属物が<出現><消失>することは、領属主にとっても直接的な影響を与えるコトガラとなり得ると判断されるためである。

(38) 他紧张得手里的杯子摔碎了。【0.80】

[彼は緊張して、手に持っていたグラスが落ちて割れてしまった]

例(38)も「グラス」を領属主の身体部位「手」に付着させることで成立しやすくなる。これは領属物を装着することにより、領属主との一体性/不可分性が高まり、身体の一部に準ずる領属物として認識されるためである。
- 4 但し、<装着類>や<人間関係>は、構文によっては文成立に関与しないケースもある。また、<人間関係>は、構文によって容認度に大きな隔りがある。
- 5 この認知能力に由来するプロトタイプ効果は、文法カテゴリーのレベルだけでなく、語彙レベルの多義性、イディオム、構文のネットワークの分布関係にもみられる。この事実は、言語能力に関わる現象が、認知能力に由来するより根源的な機能に支配されていることを示していると山梨 2000:39 は指摘している。

主要参考文献

- 陆俭明·沈阳 2003.《汉语和汉语研究十五讲》，北京大学出版社。
- 陆俭明 2004. <确定领属关系之我见>，《南大语言学》第 1 编，商务印书馆。
- 沈阳 1998. <领属范畴及领属性名词短语的句法作用>，《句法结构中的语义研究》，北京语言文化大学出版社。
- 沈阳 2002. <再议领属性名词短语的定义与分类>，《21 世纪首届现代汉语语法国际研讨会论文集 汉语语法研究的新拓展》(一)，浙江教育出版社。
- 相原茂 1976. 「構造助詞“de”の省略性」，《漢文学会会報》No.35，東京教育大学漢文学会。
- 勝川裕子 2001. 「“我的妈妈”と“我妈妈”の分析」，《多元文化》創刊号，名古屋大学国際言語文化研究科研究誌。
- 勝川裕子 2004. 「現代中国語における「領属関係」の定義とその分類」，《ことばの科学》第 17 号，名古屋大学言語文化研究会。
- 勝川裕子 2008. 「現代中国語における領属タイプと不可譲渡性」，《言語文化論集》第 29 卷 第 2 号，名古屋大学大学院国際言語文化研究科。
- 湯廷池 1987. 『中国語学研究叢書 2 中国語変形文法研究』(村松文芳訳)，白帝社。
- 角田太作 1992. 『世界の言語と日本語』，くろしお出版(1999)。
- 中川正之 1976. 「日中両国語における譲渡不可能名詞について」，《中国語学》223 号。
- 山梨正明 2000. 「プロトタイプ効果とカテゴリー化の能力 認知言語学の動向アプローチ」，《日本語学》4 月臨時増刊号 vol.19，明治書院。
- Bally, Charles. 1995. *The expression of concepts of the personal domain and indivisibility in Indo-European languages*, translated by Christin Béal & Hilary Chappell, In: Hilary, Chappell. & William, McGregor. 1996.
- Fillmore, C.J. 1968. *The Case for case*, In: Back, E. & Harms, R.T. (eds.) *Universals in Linguistic Theory*, pp.1-90, Holt, Rinehart and Winston.
- Haiman, John. 1985. *Natural Syntax*, Cambridge: Cambridge University Press.
- Hilary, Chappell. 1986. The Passive of Bodily Effect in Chinese, *Studies in Language* 10 2.
- Li, Charles N. & Thompson, Sandra A. 1981. *Mandarin Chinese A functional reference grammar*, Berkeley: University of California Press.